

作成年月日	令和2年8月24日
作成部局	企画県民部知事公室芸術文化課

兵庫陶芸美術館 開館15周年記念特別展「出石焼—但馬の小京都で生まれた珠玉のやきものー」及びテーマ展「Message—現代陶芸コレクションー」の開催

1 展覧会の概要

(1) 開館15周年記念特別展「出石焼—但馬の小京都で生まれた珠玉のやきものー」

「雪よりも白い」と表現される白磁が特徴的な出石焼、江戸時代後期に創業した兵庫県内の多くの窯場が廃窯していく中で、さまざまな困難を乗り越え、今もやきものづくりが続けられています。本展では当館の所蔵品に加え、各地の博物館や美術館、個人が所蔵されている優品を一堂に会し、その歴史や技法などを紹介します。



白磁籠目菊花貼付壺 明治30年代(1897~1906) 兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)

① 創業から現在に続く軌跡を辿る展覧会

江戸時代後期に創業した出石焼は、幕末維新の激動期を経て、現在に至っていますが、その始まりから明治時代までに製作された染付や色絵、白磁に焦点をあて、出石焼の歴史や特徴などを関連資料とともにご紹介します。

② 出石焼を一堂に会した大規模な展覧会

近年、地元の豊岡市では、市内を中心に個人が所蔵されている出石焼を展示した小規模な展覧会が開催されました。本展では、東京や石川、愛知などの博物館や美術館に所蔵され、これまで見る機会のなかった作品なども一堂に会し、その魅力をご紹介します。

③ 明治時代の白磁に装飾された超絶技巧の一端に迫る展覧会

磁土を薄く伸ばし、細かな細工が施された超絶技巧と呼ぶに相応しい出石焼の白磁は、大正時代にはその技術は途絶え、いまに受け継がれていませんが、細かな観察を繰り返すことで製作過程の再現を試み、その技術の一端に迫ります。

(2) テーマ展「Message—現代陶芸コレクションー」

現代陶芸の大きな特徴一つに、作品の背景に作家が存在することが挙げられます。作品は作家の様々な想いによって生み出され、そこには、心に残ったかたちや風景への共感、めまぐるしく変化していく社会への提唱など様々な事象が内包されています。



北川宏人《TU1625-MENTAL ARMED》
2016年 兵庫陶芸美術館

2 会期 令和2年9月12日(土)~11月29日(日)(69日間)

3 開館時間 10:00~18:00(入館は閉館の30分前まで)

4 休館日 月曜日[ただし、9月21日(月・祝)、10月19日(月)、11月23日(月・祝)は開館し、9月23日(水)、11月24日(火)は休館]

5 観覧料 一般 1000(800)円、大学生 800(600)円、高校生以下無料

※()内は特別割引および20名以上の団体割引料金です。

※70歳以上の方は半額になります。

※障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

※17時以降に観覧される場合には、夜間割引料金になります。

6 主催 (1)開館15周年記念特別展:兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

(2)テーマ展:兵庫陶芸美術館、丹波新聞社

【問い合わせ先】兵庫陶芸美術館
学芸課、企画・事業課
電話: 079-597-3961
FAX: 079-597-3967

プレス リリース
PRESS RELEASE

—但馬の小京都で生まれた珠玉のやきもの—

白 焼

い
す
し
や
き

開館15周年記念

雪肌の白が映える

Ceramic Gems from the
“Little Kyoto” of Tajima

2020年
9月12日(土)
～11月29日(日)



1. 《白磁籠目菊花貼付壺》
明治30年代(1897～1906) 兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)
2. 《釉下彩双鯉図皿》
明治34年(1901) 個人蔵
3. 《色絵金彩透彫貼花耳付壺(対)》
明治時代前期 横山美術館
4. 《染付牡丹孔雀図水注》
江戸時代後期～明治時代前期 個人蔵



土と語る、森の中の美術館
兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo



beyond
2020
芸術文化振興基金助成事業

出石焼

—但馬の小京都で
生まれた
珠玉のやきもの—
について

About Izushi Ware

出石焼は、江戸時代後期の天明4年（1784）、但馬国出石郡細見村（現豊岡市）において、出石の豪商、伊豆屋弥左衛門が土焼（陶器）窯を開いたことが始まりとされ、寛政5年（1793）には、肥前平戸（長崎県）の陶工によって石焼（磁器）の焼成が成功したといわれています。寛政11年（1799）から、出石藩による窯の経営が行われ、天保年間（1830～44）には、藩の窯業奨励政策によって、城下の商人が出資した民間の窯場が相次いで操業するようになり、染付を中心に白磁や色絵などの生産が行われ、最盛期を迎えました。

幕末から明治の混乱期に多くの窯場が閉じられましたが、明治9年（1876）、士族の授産と出石焼の改良および発展を目指して、盈進社が設立されました。また、明治32年（1899）には、素地の改良や色絵の具、銅版転写による技術改革を行った出石陶磁器試験所が開設されるなど、高い技術力と進取の気風によって業績を伸ばし、名声を高めました。しかし、いずれも、一般の需要を超えた精緻で細密な技巧の高級品の生産に偏ったことや、不況による資金難などにより、約10年で廃窯となりました。

“雪よりも白い”と表現される白磁が生産の主流を占める出石焼は、江戸時代後期に創業した兵庫県内の他の窯業地が廃窯していく中で、さまざまな困難を乗り越え、現在もやきものづくりが続けられています。そこには、万国博覧会に出品された精緻な細工の盈進社の白磁や、それまでの淡く青みがかっていた素地を改良し、技巧を凝らした出石陶磁器試験所などの白磁をつくりあげた優秀な指導者と、それらを受け継いだ陶工らの高い技術力や潇洒な芸術性が垣間見られます。

この展覧会では、当館および各地の博物館・美術館、個人が所蔵されている出石焼に加え、窯跡から採集された陶片や、図案などの絵画資料にも焦点をあて、その始まりから現在へと続く軌跡をたどっていきます。

◆展覧会の特徴

(1) 創業から現在に続く軌跡を辿る展覧会

江戸時代後期に創業した出石焼は、幕末維新の激動期を経て、現在に至っていますが、その始まりから明治時代までに製作された染付や色絵、白磁に焦点をあて、出石焼の歴史や特徴などを関連資料とともにご紹介します。

(2) 出石焼を一堂に会した大規模な展覧会

近年、地元の豊岡市では、市内を中心に個人が所蔵している出石焼を展示した小規模な展覧会は開催されましたが、東京や石川、愛知などの博物館や美術館に所蔵され、これまで見る機会のなかった作品などを一堂に会し、その魅力をご紹介します。

(3) 明治時代の白磁に装飾された超絶技巧の一端に迫る展覧会

磁土を薄く伸ばし、細かな細工が施された超絶技巧と呼ぶに相応しい出石焼の白磁は、大正時代にはその技術は途絶え、いまに受け継がれていませんが、細かな観察を繰り返すことで、製作過程の再現を試み、その技術の一端に迫ります。

展覧会概要

Exhibition summary

◆展覧会名称：「出石焼ー但馬の小京都で生まれた珠玉のやきものー」

◆会期：2020年9月12日（土）～11月29日（日）（69日間）

◆開場時間：10：00～18：00
(入館はいずれも閉館の30分前まで)

◆休館日：月曜日
[但し、9月21日（月・祝）、10月19日（月）、11月23日（月・祝）は開館し、9月23日（水）、11月24日（火）は休館]

◆観覧料：一般 1,000（800）円、大学生 800（600）円、高校生以下無料
※（ ）内は特別割引および20名以上の団体割引料金です。
※70歳以上の方は半額になります。
※障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。
※17：00以降に観覧される場合には、夜間割引料金になります。
(一般 500円、大学生 400円)
※特別割引券はローソンチケット、ミニストップ（Lコード51315）、セブンイレブン（店頭マルチコピー機セブンチケットより）、ファミリーマート（店内設置のFamilyポートより）で11月28日（土）まで販売しています。

◆会場：兵庫陶芸美術館 展示室2、4、5

◆主催：兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

◆後援：兵庫県、兵庫県教育委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会、丹波市、丹波市教育委員会、豊岡市、豊岡市教育委員会、（公財）兵庫県芸術文化協会、（公財）兵庫県国際交流協会

◆協力：丹波立杭陶磁器協同組合

関連 イベント

Related event

◆記念講演会「パリでジャポニスム工芸を開花させた出石焼」

日 時：11月7日（土） 13：30～15：00（開場は13：00）

講 師：樋田豊次郎（東京都庭園美術館 館長）

会 場：当館研修棟1Fセミナー室

事前申込制：先着110名（聴講には本展の観覧券（半券可）が必要です）

◆記念対談「古陶磁をみる眼ー出石焼を中心にー」

日 時：10月10日（土） 13：30～15：00（開場は13：00）

講 師：森由美（陶磁研究家）×弓場紀知（当館 副館長）

会 場：当館研修棟1Fセミナー室

事前申込制：先着110名（聴講には本展の観覧券（半券可）が必要です）

◆ワークショップ：「白磁の超絶技巧に挑戦」

日 時：11月1日（日） 13：00～16：00

講 師：高橋治希（金沢美術工芸大学 教授）

会 場：当館エントランス棟1F工房

事前申込制：有料、定員20名。（応募者多数の場合は抽選）

応募〆切 10月8日（木） 16：00

◆当館学芸員によるギャラリートーク

9月19日（土）、10月3日（土）、10月17日（土）、10月31日（土）、

11月14日（土）、11月28日（土）

いずれも11時より1時間程度（観覧券が必要です）

※ 新型コロナウイルスの感染拡大等によって、展覧会を含め、変更・中止となる場合があります。

お知らせ
お問い合わせ

Notice and Contact

■同時開催のテーマ展

「Message—現代陶芸コレクションー」
「丹波焼の世界 season4」～2021年2月28日（日）

■次回特別展

「ひょうごゆかりの古陶磁」
2020年12月12日（土）～2021年2月21日（日）

本資料に関するお問い合わせ

兵庫陶芸美術館 広報担当：企画・事業課 澤野洋子（サワヨウコ）

E-mail : yoko_sawano@pref.hyogo.lg.jp

展覧会担当：学芸課 仁尾一人（ニオカズト）

E-mail : kazuto_nio@pref.hyogo.lg.jp

TEL : (079) 597-3961 FAX : (079) 597-3967

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4 <http://www.mcart.jp>

但馬の小京都で生まれた珠玉のやきもの

石焼

雪肌の白が映える

開館15周年記念

Ceramic Gems from the
“Little Kyoto” of Tajima

2020年
9月12日(土)
～11月29日(日)

休館日=月曜日

※但し、9月21日(月・祝)、10月19日(月)、11月23日(月・祝)は開館し、9月23日(水)、11月24日(火)は休館

開館時間=10:00～18:00 ※入館は閉館の30分前まで

観覧料=一般 1,000円(800円)、大学生 800円(600円)、高校生以下 無料

※()内は、特別割引および20名以上の団体料金です。

◆70歳以上の方は半額になります。◆障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

◆17:00以降に観覧される場合は、夜間割引料金になります。(一般 500円、大学生 400円)

◆特別割引券はローソンチケット・ミニストップ(Lコード51315)、セブンイレブン(店頭マルチコピー機セブンチケットより)、ファミリーマート(店内設置のFamiポートより)で11月28日(土)まで販売しています。

主催=兵庫陶芸美術館、神戸新聞社
後援=兵庫県、兵庫県教育委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会、丹波市、
丹波市教育委員会、豊岡市、豊岡市教育委員会、
公益財団法人 兵庫県芸術文化協会、公益財団法人 兵庫県国際交流協会
協力=丹波立杭陶磁器協同組合



《白磁籠目菊花貼付壺》明治30年代(1897～1906) 兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)



土と語る、森の中の美術館
兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo
〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
TEL079-597-3961(代表) <http://www.mcart.jp>



beyond
2020
芸術文化振興基金助成事業

—但馬の小京都で生まれた珠玉のやきもの—



いすしやき

Ceramic Gems from the
“Little Kyoto” of Tajima

3



5



4



6

出

石焼は、江戸時代後期の天明4年(1784)、但馬国出石郡細見村(現豊岡市)において、出石の豪商、伊豆屋弥左衛門が土焼(陶器)窯を開いたことが始まりとされ、寛政5年(1793)には、肥前平戸(長崎県)の陶工によって石焼(磁器)の焼成が成功したといわれています。寛政11年(1799)から、出石藩による窯の経営が行われ、天保年間(1830~44)には、藩の窯業奨励政策によって、城下の商人が出資した民間の窯場が相次いで操業するようになり、染付を中心とした白磁や色絵などの生産が行われ、最盛期を迎えるました。

幕末から明治の混乱期に多くの窯場が閉じられましたが、明治9年(1876)、士族の授産と出石焼の改良および発展を目指して、盈進社が設立されました。また、明治32年(1899)には、素地の改良や色絵の具、銅版転写による技術改革を行った出石陶磁器試験所が開設されるなど、高い技術力と進取の気風によって業績を伸ばし、名声を高めました。しかし、いずれも、一般的の需要を超えた精緻で細密な技巧の高級品の生産に偏ったことや、不況による資金難などにより、約10年で廃窯となりました。

“雪よりも白い”と表現される白磁が生産の主流を占める出石焼は、江戸時代後期に創業した兵庫県内の他の窯業地が廃窯していく中で、さまざまな困難を乗り越え、現在もやきものづくりが続けられています。そこには、万国博覧会に出品された精緻な細工の盈進社の白磁や、それまでの淡く青みがかっていた素地を改良し、技巧を凝らした出石陶磁器試験所などの白磁をつくりあげた優秀な指導者と、それを受け継いだ陶工らの高い技術力や潇洒な芸術性が垣間見られます。

この展覧会では、当館および各地の博物館・美術館、個人が所蔵している出石焼に加え、窯跡から採集された陶片や、図案などの絵画資料にも焦点をあて、その始まりから現在へと続く軌跡をたどっていきます。

●記念講演会

「パリでジャポニスム工芸を開花させた出石焼」

日時：11月7日(土)

13:30~15:00(開場は13:00)

講師：樋田豊次郎氏(東京都庭園美術館 館長)

会場：当館研修棟1Fセミナー室

※ 事前申込制(先着110名)

※ 聴講には本展の観覧券(半券可)が必要です。

●記念対談

「古陶磁をみる眼ー出石焼を中心にー」

日時：10月10日(土)

13:30~15:00(開場は13:00)

講師：森由美氏(陶磁研究家)×弓場紀知(当館 副館長)

会場：当館研修棟1Fセミナー室

※ 事前申込制(先着110名)

※ 聴講には本展の観覧券(半券可)が必要です。

●ワークショップ

「白磁の超絶技巧に挑戦」

日時：11月1日(日)13:00~16:00

講師：高橋治希氏(金沢美術工芸大学 教授)

会場：当館エントランス棟1F工房

応募締切：10月8日(木)16:00

※ 事前申込制

(有料、定員20名、応募者多数の場合は抽選)

●担当学芸員によるギャラリートーク

9月19日(土)、10月3日(土)、10月17日(土)

10月31日(土)、11月14日(土)、11月28日(土)

いずれも11:00より1時間程度 ※ 観覧券が必要です。

新型コロナウイルスの感染拡大等によって、展覧会を含め、変更・中止となる場合があります。

※ 最新情報は当館ホームページをご確認いただくか、お問い合わせください。

Message

—現代陶芸コレクション—

2020.9.12 sat – 11.29 sun

休館日=月曜日

※但し、9月21日(月・祝)、10月19日(月)、11月23日(月・祝)は開館し、
9月23日(水)、11月24日(火)は休館

開館時間=10:00~18:00 ※入館は閉館の30分前まで

観覧料=特別展「出石焼—但馬の小京都で生まれた珠玉のやきものー」の料金に含まれます ※本展のみの観覧券はありません

主催=兵庫陶芸美術館、丹波新聞社

開館15周年を迎える当館では、開館以来、兵庫県内産の古陶磁と国内外の現代陶芸をコレクションの柱としています。特に現代陶芸では、現代陶芸史の流れを顕著に示す作品とともに、近年の活躍が目覚ましい新進作家の作品にも注目し、収集を続けています。

現代陶芸の大きな特徴一つに、作品の背景に作家が存在することが挙げられます。作品は作家の様々な想いによって生み出され、そこには、心に残ったかたちや風景への共感、めまぐるしく変化していく社会への提唱など様々な事象が内包されています。

本展では、作品に込められたメッセージについて考えるいくつかのキーワードとともに、近年収集した現代陶芸コレクションを紹介します。そのキーワードと作品を結ぶことによって何が見えてくるのでしょうか。答えは必ずしもひとつではなく、様々な解釈が存在するはずです。作品について考え、感じることで、現代の多様な陶による表現のありようをお楽しみいただければ幸いです。

秋永邦洋 Kunihiro Akinaga

十四代今泉今右衛門 Imaemon Imaizumi XIV

加藤委 Tsubusa Kato

北川宏人 Hiroto Kitagawa

金理有 Riyoo Kim

五味謙二 Kenji Gomi

重松あゆみ Ayumi Shigematsu

柴田雅章 Masaaki Shibata

鈴木治 Osamu Suzuki

竹内絢三 Kouzo Takeuchi

田嶋悦子 Etsuko Tashima

ダニエル・ポントロー Daniel Pontoreau

林茂樹 Shigeki Hayashi

林康夫 Yasuo Hayashi

松永圭太 Keita Matsunaga

松本ヒデオ Hideo Matsumoto

若杉聖子 Seiko Wakasugi



7

[担当学芸員によるギャラリートーク]

9月27日(日)、10月11日(日)、10月25日(日)、

11月8日(日)、11月29日(日)

いずれも11:00より30分程度 ※観覧券が必要です。

新型コロナウイルスの感染拡大等によって、変更・中止となる場合があります。
※最新情報は当館ホームページをご確認ください。



2



1



5



6

1. 北川宏人《TU1625-MENTAL ARMED》2016年
2. 十四代今泉今右衛門《色絵薄墨墨はじき草花更紗文額皿》2017年
3. 加藤委《サンカクノココロ》2013年
4. 松永圭太《鰐・void-monuke-》2017年
5. 五味謙二《彩土器》2017年
6. 重松あゆみ《Jomon Anatomy》2017年
7. 林茂樹《mini Q.P》2015年
所蔵はすべて兵庫陶芸美術館